

# 大賞伊藤さん 川崎市

## 一筆啓上賞「笑顔」5編選ぶ

県内からなし

坂井市と丸岡文化財団は二十九日、日本一短い手紙コンクール「第二十八回一筆啓上賞」の入賞者を発表しました。今回は「笑顔」がテーマで、最高賞の大賞には川崎市の伊藤磨理子さんら5人の作品5編が選ばれた。前回は「笑顔」がテーマで、最高賞の大賞には川崎市の伊藤磨理子さんら5人の作品5編が選ばれた。前回は「笑顔」がテーマで、最高賞の大賞には川崎市の伊藤磨理子さんら5人の作品5編が選ばれた。



大賞など上位入賞作品が読み上げられた発表会  
=いずれも坂井市高椋コミュニティセンターで

入賞者発表会は、同市高椋コミュニティセンター「たかむく古城ホール」であった。大賞五編と秀作十編、住友賞二十編、坂井青年会議所賞五編の作者名と作品が読み上げられた。県内からは住友賞に二編が選ばれ、坂井青年会議所賞の

五編は坂井市から選ばれた。佳作百二十編の入賞者名も発表され県内からは十六編が入った。発表会には、選考委員五人のうちシンガー・ソングライターの小室等さん、詩人の佐々木幹郎さん、住友グループ広報委員会事務局長の平野竜一郎さんの三人がオンラインで参加。俳人・エッセイストの夏井いつきさんと福井市の作家宮下奈都さんが会場に出席し、それぞれ講評を述べた。

佐々木さんは「笑顔」というテーマは書きやすいと思う人がいるかもしれないがある種のパターンにはまりやすい。大賞の五編はそれぞれが個性豊かで物語を持っている」と称賛した。小室さんは坂井青年会議所賞に入った小学生の五編に触れ「かわいらしい子どもたちの発想を、大人にこそ持ってもらいたい」と述べた。さらに「ラインやSNS、メールが飛び交う時代だが、肉筆の手紙の筆跡や筆圧などを通してしか伝わらないものがある。手紙文化が絶滅しないよう一筆啓上賞が続いてほしい」と締めくくった。

入賞者顕賞式は四月二十五日に、たかむく古城ホールで開かれる。入賞作を収録した作品集は四月に発行される。  
(松田士郎)

会場に出席して、作品を講評する夏井さん(左)と宮下さん

## 「言葉の向こう側の思い伝わる」 選考委員ら

第28回一筆啓上賞の選考委員たちは入賞者発表会や終了後の取材で、同賞や手紙の意義について「言葉の向こう側にある思いが伝わる」などと熱く語った。愚筆を自称する小室さんは「手書きの手紙を見ると、優しさとか怒ってるなどか、潜んでいる思いが伝わる。字に書くことで自分の思いを確認することもでき、手紙にトライして

ほしい」と語る。佐々木さんは「友人の手紙の内容よりも筆跡で、数十年前の思いに引き戻された。自筆の力だ」と話した。「書き言葉は残り続ける。一筆啓上賞は庶民文化を残してほしい」とエールを送った。「手紙は残るので書くのに覚悟がいる」と語るのは宮下さん。「普通は受け取った人にだけ意味があるが、一筆啓上賞で

は誰かにあてた手紙が大勢に読まれるのが面白い」夏井さんは、第三者による手紙の受け止め方の違いを指摘する。「今回の応募作でも、あて先となっている母親の生死を巡り選考委員の間で議論になった。受け止め方によって解釈の幅が生じる」と、他人が手紙を読むことの妙味を語った。  
(松田士郎)

### 一筆啓上賞大賞

◆伊藤磨理子(68) =川崎市中原区上平間  
「お母さん」へ  
「貴女は親切ね。優しくていいお母さんに育てられたのね。」私は、お母さんの娘ですよ。

◆佐藤浩子(49) =新潟市西区小針  
「夫」へ  
結婚式で白無垢綿帽子の私に、満面の笑みで「リアルオパQ」って言ったの忘れないから

◆上田泰守(15) =横浜市青葉区荏田西  
「自分」へ  
説教中、親を笑顔で見つめたらもっと怒られました。もう私は天使ではないようです。

◆福田栄紀(63) =盛岡市厨川  
「おかさん」へ  
手紙読むのが楽しみと笑顔見せ言うてくれたけ、切手十枚また買った。途中で逝くなや。

◆嶋崎有子(52) =栃木県那須郡那珂川町小口  
「こどもたち」へ  
迷ったら、笑顔がうまれる方へ、進んで下さい。

※敬称略。住所や年齢は応募時のもの。作品は原文のまま。

◆半沢鈴之介(16) =坂井市丸岡高定時制1年  
「自分」へ  
笑顔はお金で買えないはずなのに、どうして給料もらってニコニコするんですか。

◆宮川慎一郎(18) =勝山市勝山高3年  
「友」へ  
君は知らないだろうけど、君の笑顔に励まされている人が、知ってるだけでも一人いる。

### 坂井青年会議所賞

◆出店叶愛(7) =坂井市春江小2年  
「天ごくのおとうと」へ  
わたしのえがおは天ごくとどいてる？二つのえくぼかわいいでしょ？一つあげよっか？

◆寺前にこ(9) =坂井市長畝小3年  
「びょういんの先生」へ  
わたしは、自分の名前が大すき。会うと、ニコニコにこちゃんってよんでくれるから。

◆池田愛和(6) =坂井市平章小1年  
「おとなのは」へ  
まえば二ほん、はやくはえてきて。しちごさんのしゃしん、にここできないでしょ。

◆山本真尋(8) =坂井市大関小3年  
「ママ」へ  
平日の朝、ママのえがおが、十秒つづけば、世界はみんな、平和になると思います。

◆山西あおい(8) =坂井市三国西小2年  
「おとうと」へ  
うまれて2か月、かぞくのえがおが、ふえました。この手がみいつ読めるかな。

### 佳作

- ▽福井市 井元美咲(11)、北田美羽(7)、斎藤光来(10)
- ▽坂井市 浅井純代(46)、荒木さくら(15)、佐藤克幸(42)、土岐陽太(10)、仲嶋晴哉(11)
- ▽あわら市 小林良嗣(76)
- ▽勝山市 加藤虎之介(15)、森石梨奈(18)
- ▽鯖江市 加賀和杜(16)
- ▽敦賀市 竹村友杜(17)、山岸千景(59)
- ▽越前町 内田安南(11)
- ▽南越前町 沢崎純子

県内の入賞作品

※いずれも関係分。敬称略、住所や年齢は応募時のもの。作品は原文のまま。